

病理診断科初期臨床研修プログラム(選択科)

研修責任者： 高橋 青志郎

研修期間 4 週～

一般目標 (GIO: General Instruction Objective) :

診断病理学に必要な知識、技能、態度を身につける。

行動目標 (SBOs: Structural Behavior Objectives) :

病理解剖を研修指導医とともに執刀できる。

病理解剖症例の適切な切り出しができる。

臨床事項と考察を含めた病理解剖報告書を作成できる。

CPC において病理所見を的確に説明できる。

手術材料の肉眼所見をとり、簡明な切り出し図を作成できる。

手術材料を診断し報告書を作成できる。

迅速病理診断において研修指導医とともに良悪性の判定をし、適切な報告ができる。

基本的な病理組織標本の作製を実施できる。

細胞診標本の作製過程と細胞診の特性を説明できる。

方略： 研修指導医とともに解剖および手術症例の最終診断にいたる病理業務をおこなう。

評価： 日本病理学会病理専門医研修手帳に準拠し、項目毎に自己評価および指導医評価を三段階でおこなう。

週間予定：

手術症例の切り出し (月～金)

呼吸器外科との手術症例打合せ (月曜日、午前 8 時半)

消化管生検検討会 (月 1 回、不定期、午後 4 時半)

腎生検検討会 (月 1 回、水曜日、午後 4 時)

CPC (年 8 回、1 症例/回、火曜日、午後 6 時)

研修医への提言：

専門研修で病理専門医の道を進む方： どこへ行っても通用する外科病理学の基本を身につけることができます。

専門研修で進む臨床科を決めている方： 専門研修で学ぶ専門科に関係する症例を重点的に見るようになります。

専門研修での進路を迷っている方： 1 ヶ月間病理から臨床を眺めてみてはいかがでしょうか。

基礎研究の道を進む方： ヒト材料を用いた研究を行なう場合の病理部門の活用方法を知ることができます。